

作成日 2017年 2月28日

## 安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

製品名 : 活性炭カートリッジ RF000615  
会社名 : 株式会社東洋製作所  
本社住所 : 〒277-0861 千葉県柏市高田1335  
担当部門 : 製造部 大阪工場 品質管理課  
電話番号 : 072-967-1360  
F A X : 072-967-1370



推奨用途および使用上の制限 : 純水製造装置の純水精製用部分品

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性 :  
火薬類 : 分類対象外  
可燃性・引火性ガス : 分類対象外  
可燃性・引火性エアゾール : 分類対象外  
支燃性・酸化性ガス : 分類対象外  
高压ガス : 分類対象外  
引火性液体 : 分類対象外  
可燃性固体 : 分類できない  
自己反応性化学品 : 分類対象外  
自然発火性液体 : 分類対象外  
自然発火性固体 : 区分外  
自己発熱性化学品 : 区分外  
水反応性化学品 : 分類できない  
酸化性液体 : 分類対象外  
酸化性固体 : 分類できない  
有機化酸化物 : 分類対象外  
金属腐食性物質 : 分類できない  
健康に対する有害性 :  
急性毒性(経口) : 分類できない  
急性毒性(経皮) : 分類できない  
急性毒性(吸引:ガス) : 分類対象外  
急性毒性(吸引:蒸気) : 分類対象外  
急性毒性(吸引:粉塵・ミスト) : 区分5  
皮膚腐食性・刺激性 : 分類できない  
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 分類できない

(繊維状活性炭シート)

作成日 2017年 2月28日

呼吸器感作性	:	分類できない
皮膚感作性	:	分類できない
生殖細胞変異原性	:	分類できない
発がん性	:	分類できない
生殖毒性	:	分類できない
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく霧)	:	分類できない
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく霧)	:	分類できない
吸引力呼吸器有害毒性	:	できない
環境に対する有害性	:	分類対象外
GHSラベル要素	:	絵表示なし
注意喚起語	:	警告
危険有害情報	:	吸入すると有害の虞 乾燥した本製品と電気スパークが接触した場合、着火を誘う

## 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	:	混合物
化学名または一般名	:	活性炭カートリッジ R F O O O 5 7 5
成分および含有量	:	活性炭 (繊維状活性炭シート) ホ°リエチレンテレフタレート (繊維状活性炭シート) (接着剤) 銀 (繊維状活性炭シート) 熱可塑性ゴム (接着剤) 粘着付与樹脂 (接着剤) ポリエチレン (接着剤) (エンドキャップ)
化学式又は構造式	:	活性炭 (C) ホ°リエチレンテレフタレート $[OC-C_6H_4-CO_2CH_2CH_2O]_n$ 銀 (Ag) ホ°リエチレン $(CH_2)_n$
官報公示整理番号(化審法、安衛法)	:	ホ°リエチレンテレフタレート 化審法：(7)-1022 ホ°リエチレン 化審法：(6)-10 安衛法：(6)-10
CAS番号	:	活性炭 7440-44-0 ホ°リエチレンテレフタレート 25038-59-9 銀 7440-22-4 ホ°リエチレン 9010-79-1

作成日 2017年 2月28日

## 4. 応急措置

- 吸入した場合
- ： 乾燥したカートリッジを分解した場合に発生する粉じんを吸入した場合、水でうがいし鼻をかむ。咳き込みが続くときには蒸気吸入器で気管洗浄するほか、医師の診察・処置を受ける。新鮮な空気のある場所に移し、医師の診察を受ける。
- 加熱されたカートリッジの蒸気を吸入した場合は、空気のある新鮮な場所へ移動し、呼吸困難などの症状が出た場合は、医師の診察を受ける。
- 皮膚に付着した場合
- ： 乾燥したカートリッジを分解した場合に発生する粉じんが付着した場合、汚染された衣服を脱ぎ、再使用する前に洗濯すること。皮膚は水と石鹸で洗い、外観に変化が現れたり、痛みが続く場合は、医師の診察を受けること。
- 燃焼物の溶融物が皮膚に付着した場合は、直ちに水で冷却し火傷に対する処置を行う。
- 眼に入った場合
- ： 乾燥したカートリッジを分解した場合に発生する粉じんが眼に入った場合、直ちに数分間流水で注意深く洗浄すること。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
- 燃焼物の溶融物が眼に入った場合は、直ちに水で冷却し、眼科医の手当てを受ける。眼をこすったり、無理にあけさせてはならない。
- 飲み込んだ場合
- ： 速やかに口をすすぎ、直ちに医師の診察を受けること。

## 5. 火災時の措置

- 消火方法
- ： 可能な限り風上より行う。移動可能な容器は速やかに安全な場所へ移す。火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁じる。
- 適切な消火剤
- ： 水(初期)、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素消火剤、砂。
- 使ってはならない消火剤
- ： データなし
- 消火を行う者の保護
- ： 防火服、消火用防毒マスク、保護眼鏡、手袋。皮膚の露出を避ける保護具が望ましい。

作成日 2017年 2月28日

---

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 乾燥したカートリッジを分解した場合に発生する粉じんは吸い込まないようにする。
- 保護具及び緊急時措置 : 保護眼鏡、手袋、長袖作業着などを着用する。
- 環境に対する注意事項 : 乾燥したカートリッジを分解する場合、発火源からは隔離し、万が一に備え消火道具を用意する。粉じんは飛散しないようにする。
- 回収、中和 : 乾燥したカートリッジを分解した場合に発生する粉じんは、ほうき又は真空掃除機で清掃する。
- 

## 7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い : 推奨用途および使用上の制限に従って使用し、カートリッジは乾燥状態、湿潤状態のいずれの場合でも分解しない。
- 保管 : 変質を防止するため、冷暗所で保管し、直射日光、紫外線、水漏れ、高温、高湿、野外保管を避けると共に、強酸、強アルカリ、酸化剤、アセチレン、有機溶媒との接触を避ける。  
高温物、火気、熱源、電源の付近に保管しない。  
静電気、衝撃火花などが着火源とならないよう配慮する。  
3000kg以上の保管時には、消防法(指定可燃物)の適用を受ける。
- 

## 8. 暴露防止及び保護措置

推奨用途および使用上の制限に従って使用する場合

- 管理濃度 : データ無し
- 許容濃度
- 日本産業衛生学会 : データ無し
- ACGIH : 設定されていない。
- 設備対策 : 特に無し
- 保護具 : 特になし

乾燥したカートリッジを分解し、粉じんが発生した場合

- 管理濃度 : 2.9mg/m<sup>3</sup>
- 許容濃度
- 日本産業衛生学会 : 0.5mg/m<sup>3</sup>
- ACGIH(2006) : 2.0mg/m<sup>3</sup>
- 設備対策 : 作業場には、換気設備・防塵設備を整える。
- 保護具 : 作業時には、適切な呼吸器保護具、保護用手袋を着用する。

作成日 2017年 2月28日

## 9. 物理的及び化学的性質

## 物理的状态

外觀（物理状态、形状、色など）

物理的状态	:	円筒形固体
色	:	灰色
臭い	:	無臭
臭いの閾値	:	データなし
pH	:	-
沸点	:	データなし
融点・凝固点	:	約100℃
引火点	:	約200℃
発火点	:	約300℃
分解温度	:	データなし
比重（密度）	:	データなし
n-オクタノール／水分配係数	:	データなし
蒸気圧	:	データなし
蒸気密度（空気＝1）	:	データなし（固体）
蒸発速度	:	データなし
爆発範囲の上限・下限	:	データなし
溶解度	:	データなし

## 10. 安定性及び反応性

安定性、反応性	:	通常の手扱い条件では安定。
危険有害反応可能性	:	強酸化剤と反応する可能性がある。 250℃を超える温度では、接着剤が徐々に分解、劣化する。 300℃以上でエンドキャップが発火する虞がある。
避けるべき条件	:	保管時の避けるべき条件は、7. 取扱い及び保管上の注意の通り。
混触危険物質	:	有機溶剤、高温、協賛、強アルカリ、強酸化剤、アセチレン、アンモニアなどとの接触
危険有害性のある分解生成物	:	燃焼などにより、一酸化炭素を生じる場合がある。

## 11. 有害性情報

急性毒性	:	データなし。
皮膚腐食性・刺激性	:	データなし。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	:	データなし。

呼吸器感作性	:	データなし。
生殖細胞変異原性	:	データなし。
発がん性	:	IRACグループ3 (ホリエレン)
生殖毒性	:	データなし
特定標的臓器・全身毒性		
- 単回暴露	:	データなし
特定標的臓器・全身毒性		
- 反復暴露	:	データなし
吸引性呼吸器有害性	:	データなし
その他	:	大量の乾燥したカートリッジを分解し、発生した高濃度の粉じん下で長時間作業した場合、じん肺障害を起こすことがある。

---

## 12. 環境影響情報

生態毒性	:	データなし
残留性・分解性	:	通常的环境下において分解せず、長期間残留する。
生体蓄積性	:	データなし
土壌中の移動性	:	データなし
オゾン層有害性	:	データなし
環境中で予測される挙動	:	データなし
その他	:	環境汚染ならびに海洋生物、鳥類などが摂取することを防止するため、いかなる海洋や水域でも、投棄、放出してはならない。

---

## 13. 廃棄上の注意

該当法規に従い、廃棄物として処理する（国、都道府県ならびに地方自治体の法規、条例に従う）。

一般産業廃棄物と同様に都道府県知事が許可した産業廃棄物処理業者もしくは、地方公共団体がその処理を行っている場合には、その団体に委託して処理する。

焼却処分するときは、管理された焼却設備を用いて、大気汚染防止法、廃掃法、水質汚濁防止法などに沿って処理する（廃棄時には、産業廃棄物として処理することをおすすめします）。

---

## 14. 輸送上の注意

国連番号	:	非該当
国連分類	:	非該当
海洋汚染物質	:	非該当
安全対策	:	「7. 取扱い及び保管上の注意」に記載の他、可燃性個体に関する一般的な注意に従う。

---

## 15. 適用法令

化学物質管理促進法	:	第一種指定化学物質(銀)
消防法	:	指定可燃物 合成樹脂類(3,000kg) 指定可燃物 石炭・木炭類(10,000kg)
労働安全衛生法	:	通知対象物質(銀)

---

## 16. その他の情報

### 記載内容について

本データシートの記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。

また、含有量、物理・化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではなく、注意事項は、通常の実施を前提としたものですので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

ご需要家各位は本シートを参考にして、自らの責任において、個々取扱いなどの実態に応じた適切な措置をお取りくださいますよう、お願いいたします。

### 参考文献

- ・化学物質安全データシートMSDS-第1部：内部及び項目の順序(JIS Z 7250:2010)
  - ・国連GHS文書 改訂3版(2009年)
  - ・GHS分類結果データベース nlte (独立行政法人 製品評価技術基盤機構)HP
  - ・GHS対応ラベル及びMSDS作成マニュアル 厚生労働省医薬食品局
-